

市民交流団モンゴル訪問事業について

- 1 事業概要
- 2 成果
- 3 課題

総合政策部
国際化推進室



1 事業概要①

(1) 目的

友好交流都市であるモンゴル国ウランバートル市を訪問する機会を市民に提供することにより、モンゴルの人々との交流、文化、歴史、生活様式等を学んでもらい、友好親善が今後さらに深まることを目的とする。

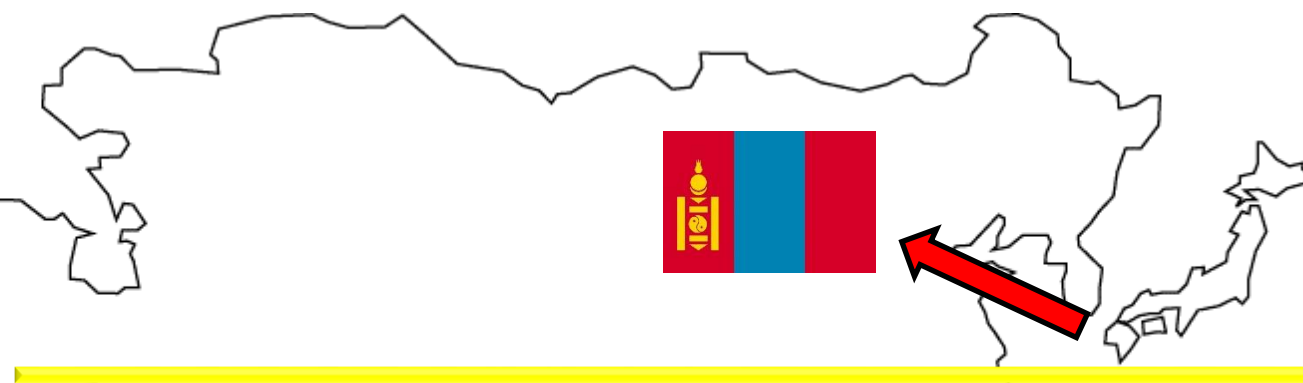
(2) 訪問先 モンゴル国ウランバートル市

(3) 訪問期間 平成29年7月31日(月)～8月7日(月)、7泊8日

(4) 訪問団員 市民10名(中学生5名、高校生1名、成人4名)

※グローバル人材の育成を目的に、定員の半数を中学生にした。

引率者3名(職員2名、通訳:国際交流員1名)



Ulaanbaatar  Miyakonojo
Friendship City Program 2017

1 事業概要②

(5) 活動内容

※ウランバートル市と交流のある中国・韓国・ロシアの青少年との交流事業に参加

- ①ウランバートル市役所訪問
- ②ウランバートル市内視察(博物館、景勝地など)
- ③現地大学生との交流
- ④モンゴル料理作り体験
- ⑤ゲル宿泊体験
- ⑥モンゴルの伝統的な祭り見学・体験



市内を一望する丘より



モンゴルの移動式住居「ゲル」に宿泊



お土産交換

○「グローバル人材」の概念 (出典)「グローバル人材育成推進会議中間まとめ」(2011年6月)

要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

2 成果

①外国や海外の文化、郷土の文化についての気づき

参考① 事業実施後アンケートより。中高生6名の回答

Q.この事業を今後どのように生かしていこうと思っていますか。(選択)()内は人数

- ・モンゴル以外の国へ行ってみる(5)
- ・モンゴルについての知識を得る(4)
- ・都城市または日本の文化についてさらに知る(4)
- ・周りの人にモンゴルのことを伝える(4)
- ・モンゴルの人と交流する(2)
- ・国際国流・国際協カイベントに参加する(2)

参考② 事業報告書(感想文)より抜粋

- ・言葉はもちろん、文化や食べ物、人種、生活様式などの違いを肌で感じてきました。
- ・モンゴルの良さや日本、都城のことについて再発見することができました。
- ・都城市の文化をもっと学ぶ必要性も感じた。

②自立心を養った 中高生6名のうち3名が自己評価(事業実施後アンケートより)

3 課題

①あいさつ・コミュニケーション

大人から促さないとあいさつや返答がない。
他国の青少年との交流を積極的にしない。

②語学力

知っている単語や文法を用いて会話をするができない。
(中学で習う英語で日常会話は成立するはず)

相関関係
あり?

参考③ 事業報告書(感想文)より抜粋

- ・モンゴル訪問をして気付いたことは、いかに**言葉を使つてのコミュニケーションが大事**かということです
- ・**英語の大切さ**を知ることができました。
- ・**英語はやっぱり世界の共通語**だということを実感しました。
- ・**国際交流に欠かせない英語**の勉強を、これからもがんばろうと思いました。